

III. 「基準」ごとの自己評価

基準1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1-1. 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

『1-1の視点』

1-1-① 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。

(1) 1-1の事実の説明(現状)

「I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色」に記述したように、本学では学園創設者薮内敬治郎により示された「建学の精神」を今日に受け継ぎ、奈良大学における教育研究の基本理念として継承している。

教職員に対しては、仕事始めや辞令交付式等の各種式典における理事長訓話や、周年事業時に発行する記念誌等の本学出版物への掲載など、様々な機会を通じて、繰り返し伝達している。また、平成19(2007)年度からの新たな取組みとして「初任者研修会」を開始し、『奈良大学二十五年史』はじめ紀要・研究所報・大学報など本学刊行物一式を配布して、「建学の精神・大学の基本理念」について説明を行い、新任教職員への周知徹底に努めている。

学生に対しては、入学式・卒業式における理事長挨拶や『COLLEGE LIFE(学生便覧)』等出版物への掲載により、周知を図っている。また、新入生全員を対象に入学式後に「奈良大学の歩み」と題した講演会を実施している。この講演会は、創立以来の本学の発展過程を辿りながら、私財を投じ夜間中学の設立から出発した学園創設者の教育に対する熱い思いを伝えるとともに、建学の精神及び大学の基本理念の、新入生への浸透を意図したものである。

また、学外者に対してはホームページと、受験生及びその保護者に向けた『大学案内』に掲載することによって、周知に努めている。

(2) 1-1の自己評価

建学の精神・大学の基本理念を示す手段としてさまざまな方法を講じていると自己評価する。しかし、保護者や高校進路指導担当教員など学外者に対する提示方法は、現状で手を尽くしているとまでは言えない。教育課程との関わりについて、更に周知に努める余地がある。

(3) 1-1の改善・向上方策(将来計画)

教職員に対しては、「初任者研修会」と、1-2に記述する周知度調査を継続実施して、建学の精神・基本理念を各自が考えるきっかけとし、教育課程への反映促進を期する。学生に対しては、入学式当日の講演会を一層、充実させて継続する。また、学生のほか保護者や学外者に対しても、建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的を伝え、制定に至った背景や意図も併せて理解してもらうために、関係者へのインタビューや各種資料をまとめて平成19(2007)年度内にDVD化する。

1－2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

『1－2の視点』

1－2-① 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。

1－2-② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

1－2-③ 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

(1) 1－2の事実の説明（現状）

本学は昭和63(1988)年の開学20周年に際して、「建学の精神・基本理念」を踏まえ、大学としての使命・目的を明示するために、「教学の理念」を成文化した。

教学の理念

①つねに真理の探究につとめ、伝統と現代感覚の調和をはかりつつ、学術文化の創造と進歩に寄与する。

②ふれあいと対話の教育を基調にして、豊かな人間性を養い、独立自由を尊ぶとともに、友情あつく協調性に富んだ人材を育成する。

③国際的視野に立つ開かれた大学として、地域社会との連帯を深めながら、ひろく人類社会の平和と発展に貢献する。

以来、この理念に基づいた教育研究の実践を通じて、社会的使命の達成に取り組んできた。本学の個性・特色や教育課程との関連については、既に記述したように、「伝統と現代感覚の調和」、「学術文化の創造」が、我が国初の文化財学科や履修プログラムとしての「世界遺産コース」の設置につながり、ゼミなど少人数制教育や巡検・見学などの体験的学習を通じ「ふれあいと対話の教育」「豊かな人間性」の涵養、「友情あつく協調性に富んだ人材」の育成を実践している。国際交流協定の締結や交換留学制度、「地域連携教育研究センター」の設置などにより、「国際的視野に立つ開かれた大学」「地域社会との連帯」を具体的に実行しつつある。

学生及び教職員に対する「教学の理念」の周知策としては、建学の精神と一体化して、ホームページや『COLLEGE LIFE(学生便覧)』に掲載している。また、学外に対しては、ホームページと、受験生及び保護者の目に触れる機会が多い『大学案内』に掲載することにより、周知を図っている。

(2) 1－2の自己評価

大学の使命・目的は「教学の理念」として明確に定めており、特色ある学科や履修プログラム、地域社会との連携などを通じ、達成に向けた取組みを行っている。「教学の理念」は、「建学の精神」と文言上の共通点はないが、「高い倫理観に立脚し、絶えず努力を積み重ねて人生を切り拓く、強くたくましい、社会に貢献する人材の育成」という趣旨を反映したものと自己評価する。なお、現行の「教学の理念」に関して学内には、本学の個性・特色である「奈良という立地を活かした教育研究の実践」についても明示することが望ましい、「個性を伸ばす教育の促進」や、「困難に敢然と立ち向かう積極的姿勢を奨励する」方向を盛り込むことが望ましい、などの意見もある。

建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的の学内外に対する周知については従来から相応の努力を払ってきたが、認知度把握のため、平成18(2006)年10月、専任教職員に対するアンケートを実施した(表1-1参照)。

表1-1 「建学の精神」「教学の理念」周知度アンケート

在職者数		127	
回収集(回収率)		92	72.4%
設問内容		回答数	回答比率
本学の「建学の精神」「教学の理念」をご存知ですか	よく知っている	13	14.1%
	だいたい知っている	58	63.0%
	あまりよく知らない	21	22.8%
	全く知らない	0	0.0%
「建学の精神」「教学の理念」は、何に掲載されているかご存知ですか	COLLEGE LIFE	71	77.2%
	ホームページ	23	25.0%
	奈良大学25年史	15	16.3%
	履修要項	8	8.7%
	自己点検冊子	11	12.0%
	大学案内	25	27.2%
	就職ガイド	6	6.5%
本学において「建学の精神」「教学の理念」が、教育もしくは業務に反映されているとお考えですか	よく反映されている	0	0.0%
	まあまあ反映されている	41	44.6%
	あまり反映されていない	43	46.7%
	全く反映されていない	7	7.6%
	未回答	1	1.1%

集計の結果、約8割の教職員は「よく」又は「だいたい」知っていると回答していたが、一方で「あまり知らない」との回答が2割以上あった。学生に対する浸透度は未調査であるが、この現状に照らせば、未だ十分ではないと判断される。このアンケートの周知の方策等に関する自由記述欄では、構内各所への掲示・ホームページへの掲載方法の工夫・CDやカレンダーの形による学生への配布・学内各種出版物の裏表紙に掲載、など様々な提案が寄せられており、これらを踏まえた改善が必要である。

(3) 1-2 改善・向上方策（将来計画）

大学の使命・目的の周知度向上策の一環として、平成19(2007)年度内に、学内数箇所に「教学の理念」を記したパネルを掲示する。更に、従来以上にホームページの活用を図るため、各部署・学科毎に構成しているそのコンテンツについて、大学の使命・目的を周知させる観点から、全般的な見直しを検討している。

不易流行の言葉にあるように、大学の使命・目的は、建学の精神に立脚しつつ、時代性や社会的需要を反映しての変化発展が求められている。将来的には、学部学科構成や教育課程編成のあり方を見据えつつ、必要に応じ改定も視野に入れる。

[基準1の自己評価]

建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的について、印刷物やホームページ上に掲載し、講演会や訓話、ガイダンスで紹介を行っているが、更に、個々の授業や事務局各課の窓口対応に関わるレベルでも、周知の方策を講じる余地がある。各々の取組みの効果を確認しつつ改善を行うことが望ましいため、認知度(周知度)を定点的に把握する手段を講じる必要がある。

[基準1の改善・向上方策（将来計画）]

平成19(2007)年度における新たな取組みとして、「教学の理念」のパネル掲示を実施する。また、学生や保護者、更には学外者に対して、建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的を紹介するDVDを作成し、自由に見ることができる形で配置する。一方で、前述のアンケート調査を行って、学内における認知度の把握に努めるとともに、アンケートの実施自体を周知策のひとつと捉え、継続的に取り組んでいく。